

鉄道駅などを中心としたコンパクトな都市づくり

計画概要

◆**計画期間** 平成29年度～令和3年度

◆**交付対象** 豊田市

◆**計画の目標**

【賑わいと魅力ある都心づくり】

- ・豊田市中心市街地活性化基本計画に位置付けられている区域において、賑わいの創出、安全・安心・快適な歩行空間の確保及び交通の円滑化を図る。

【鉄道駅などを中心としたコンパクトシティの実現】

- ・豊田市は、合併を重ね広大な市域と分散した市街地を抱える課題を踏まえ、地域ごとの課題や特性に応じた都市機能や生活機能を集積・維持集約する地域・拠点において、地域核整備、定住促進（駅周辺地区）等の取組みを総合的かつ集中的に進めることで、活力あるまちづくりの実現を目指す。

【文化ゾーン地区・暮らしにぎわい再生地区】

- ・公共交通の利用と連携した中心市街地の賑わいを再生し、歴史的資源を活用した魅力の向上を図るとともに、既成市街地外縁部における生活機能を確保する。

鉄道駅などを中心としたコンパクトな都市づくり

計画概要

◆計画の成果目標（定量的指標）

指標①：中心市街地の歩行者交通量の増加

現況値（H29）78,232人／日 ⇒ 目標値（R3）80,266 人／日

指標②：区画整理区域内の居住人口の増加

現況値（H29）2,532 人 ⇒ 目標値（R8）6,789 人

指標③：藤岡支所・藤岡交流館の年間利用者数の増加

現況値（H26）84,000 人 ⇒ 目標値（R3）100,000人

指標④：中心市街地における満足度向上

現況値（H29）25.6 % ⇒ 目標値（R3）28.1 %

指標⑤：開館年度（R6）の博物館への目標年間入館者数

現況値（R2）－ ⇒ 目標値（R6）50,000人

◆交付対象事業の進捗状況【事業数ベース】

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A 基幹事業 (全7事業)	18,225百万円 (18,225百万円)	市街地再開発事業、土地区画整理事業、都市再生整備計画事業、暮らし・にぎわい再生事業を実施し、概ね計画通りの進捗となった。	100%
B 関連社会資本 整備事業 (全1事業)	73百万円 (73百万円)	豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業（A-1）と一体となり、周辺の道路改築を進めることにより市街地再開発事業が促進され、魅力ある都心地区の活性化を図った。	100%
C 効果促進事業 (全1事業)	61百万円 (61百万円)	豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業（A-1）と一体となり、周辺の道路改築を進めることにより市街地再開発事業が促進され、魅力ある都心地区の活性化を図った。	100%
合 計	18,359百万円 (18,359百万円)		100%

※事業費は交付対象事業費の実績額。（）内は整備計画最終変更時の交付対象事業費

※進捗率（%）は各事業の計画に対する実施割合（事業費ベース）

評価内容

◆ 定量的指標の達成状況

指標① 中心市街地の歩行者交通量の増加

当初現況値	78,232人/日	目標値と実績値 に差が出た要因	新型コロナウイルス感染症拡大前においては、歩行者交通量も順調に推移しており、中心市街地への期待が高まっていることが確認できたが、新型コロナウイルス感染症拡大以降は、中心市街地への来訪者数の大幅な減少などの影響により、最終目標値を下回る結果となった。
最終目標値	80,266人/日		
最終実績値	78,832人/日		

指標② 区画整理区域内の居住人口の増加

当初現況値	2,532人	目標値と実績値 に差が出た要因	令和3年度末時点、豊田花園地区の建物補償の最盛期であり、一時的に地区外へ転居する地権者が多かったため、目標設定時よりも人口が減っている。四郷駅周辺地区を除く2事業地区は、次期計画における5か年にて、事業完了の見込みであり、最終目標値を超える居住人口増加を目指す。
最終目標値	6,789人		
最終実績値	3,363人		

指標③ 藤岡支所・藤岡交流館の年間利用者数の増加

当初現況値	84,000人	目標値と実績値 に差が出た要因	新型コロナウイルス感染拡大防止のために来館者数が減少したことに加え、イベントや集会等が中止となったことが影響し目標値を大きく下回ったが、整備後の住民アンケートから整備後の藤岡支所・藤岡交流館が地域のふれあいと賑わいの創出を図る拠点となっている、あるいは期待されていることが確認できた。
最終目標値	100,000人		
最終実績値	43,699人		

◆定量的指標の達成状況

指標④ 中心市街地における満足度向上

当初現況値	25.6%	目標値と実績値に差が出た要因	多機能複合施設やペDESTロリアンデッキ整備、駅前広場等を整備したことにより、まちなかのにぎわいや、魅力創出につなげることができた。引き続き、次期整備計画内でも継続的に事業を推進し、さらなるまちの賑わい創出を図っていく。
最終目標値	28.1%		
最終実績値	26.9%		

指標⑤ 開館年度（R6）の博物館への目標年間入館者数

当初現況値	—	目標値と実績値に差が出た要因	令和3年度に既設建物の解体と博物館の設計が完了し、新築工事が始まっている。 令和5年度までの事業であり、令和5年度中に部分開館、令和6年度中に全面開館を予定しているため、目標の達成はできていない。次期整備計画にて目標の達成を見込む。
最終目標値	50,000人		
最終実績値	—		

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況①

■ 関連する成果目標（定量的指標）

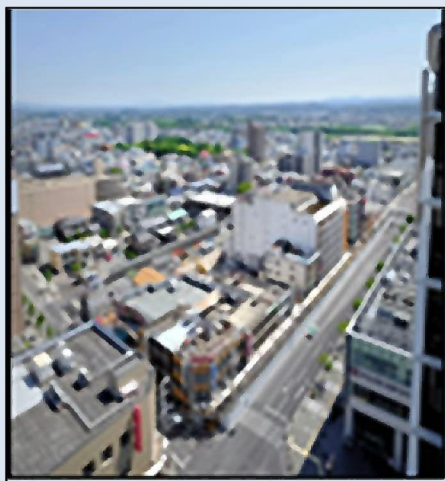
指標①：中心市街地の歩行者交通量の増加

現況値（H29）78,232 人／日 ⇒ 目標値（R3）80,266 人／日

【目標達成に資する事業】

- ・ 豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業
- ・ 市道豊田駅前1号線道路整備事業
- ・ 高質空間形成施設（緑化施設等）整備事業

豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業



整備前



整備後

市道豊田駅前1号線道路整備事業



整備前



整備後

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況①

■事業効果

豊田市駅を中心として新たな市街地形成の基盤が整備されることで、昼夜間人口の拡大および中心市街地の活性化、交通環境ならびに都市防災機能の向上等を図ったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、人流抑制や在宅勤務が増加し、効果の発現が限定的となった。

■目標指標以外の事業効果（補完指標）

①豊田都心地区内の居住人口

※挙母地区の4月1日現在の居住人口

130,597人 ⇒ 132,658人
(H27年) (R4年)

②豊田都心地区内の鉄道利用者数

※豊田市駅、新豊田駅の乗降客数の合計

46,514人 ⇒ 33,339人
(H27年度) (R3年度)

③都心に賑わいを感じる割合

※第20回、23回市民意識調査結果より

25.0% ⇒ 26.9%
(H27年) (R3年)



都心地区の賑わいの様子 7

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況②

■ 関連する成果目標（定量的指標）

指標②：区画整理区域内の居住人口の増加

現況値（H29）2,532 人

⇒ 目標値（R3）6,789 人

【目標達成に資する事業】

- ・ 豊田土橋都市再生区画整理事業
- ・ 豊田花園都市再生区画整理事業
- ・ 豊田四郷駅周辺都市再生区画整理事業

豊田四郷駅周辺地区



整備前



整備後

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況②

■事業効果

- ・四郷駅周辺地区における大規模商業街の複数のテナントオープンによって、豊田市北部エリアの日用品等の買い物需要に大きく貢献できた。
- ・各事業は施行中ではあるものの、道路や橋梁等の都市基盤を進めることにより、交通環境の改善および都市防災機能の向上を図ることができた。

■目標指標以外の事業効果（補完指標）

市民意識調査において、以下の問いに対し満足度

※第22回、23回市民意識調査結果より

- ①多様なニーズに対応した住宅や宅地が供給されている
4.14 ⇒ 4.09
- ②歩行者や自転車利用者にとって安全で快適な道路が整っている
3.32 ⇒ 3.41
- ③商業地に魅力とにぎわいがある
3.83 ⇒ 3.61
- ④生活や産業を支える道路が整っている
4.44 ⇒ 4.53



供用開始中の商業店舗
(四郷駅周辺土地区画整理事業)

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況③

■関連する成果目標（定量的指標）

指標③：藤岡支所・藤岡交流館の年間利用者数の増加

現況値（H26）84,000人 ⇒ 目標値（R3）100,000人

【目標達成に資する事業】

- ・藤岡地域核地区都市再生整備計画事業



整備前



整備後

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況③

■事業効果

藤岡支所、藤岡交流館を始めとする行政関係機関が集約され、地域の中核拠点が整備されたことで、地域のふれあいと賑わい創出の契機となった。今後も、新たな拠点施設等における地域住民の自主的な活動の活性化支援を図ることで地域の賑わいを創出していく。

■目標指標以外の事業効果（補完指標）

地域の魅力づくり・地域活力創出への期待度…評価値4.0点/5.0点

新たな拠点施設での活動意欲…評価値3.5点/5.0点

施設利便性の満足度…4.1点/5.0点

イベント等への参加意欲の向上…評価値3.7点/5.0点

※住民アンケートの回答結果より、平均ポイントを計測・集計し、評価値（5.0点満点）として整理



藤岡支所・藤岡交流館（外観）



藤岡支所・藤岡交流館（内観）



バス停

バスターミナル



バス待合所

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況④

■ 関連する成果目標（定量的指標）

指標④：中心市街地における満足度向上

現況値（H29）25.6 %

⇒ 目標値（R3）28.1 %

【目標達成に資する事業】

- ・ 豊田都心地区都市再生整備計画事業



整備前



整備後

整備前



整備後

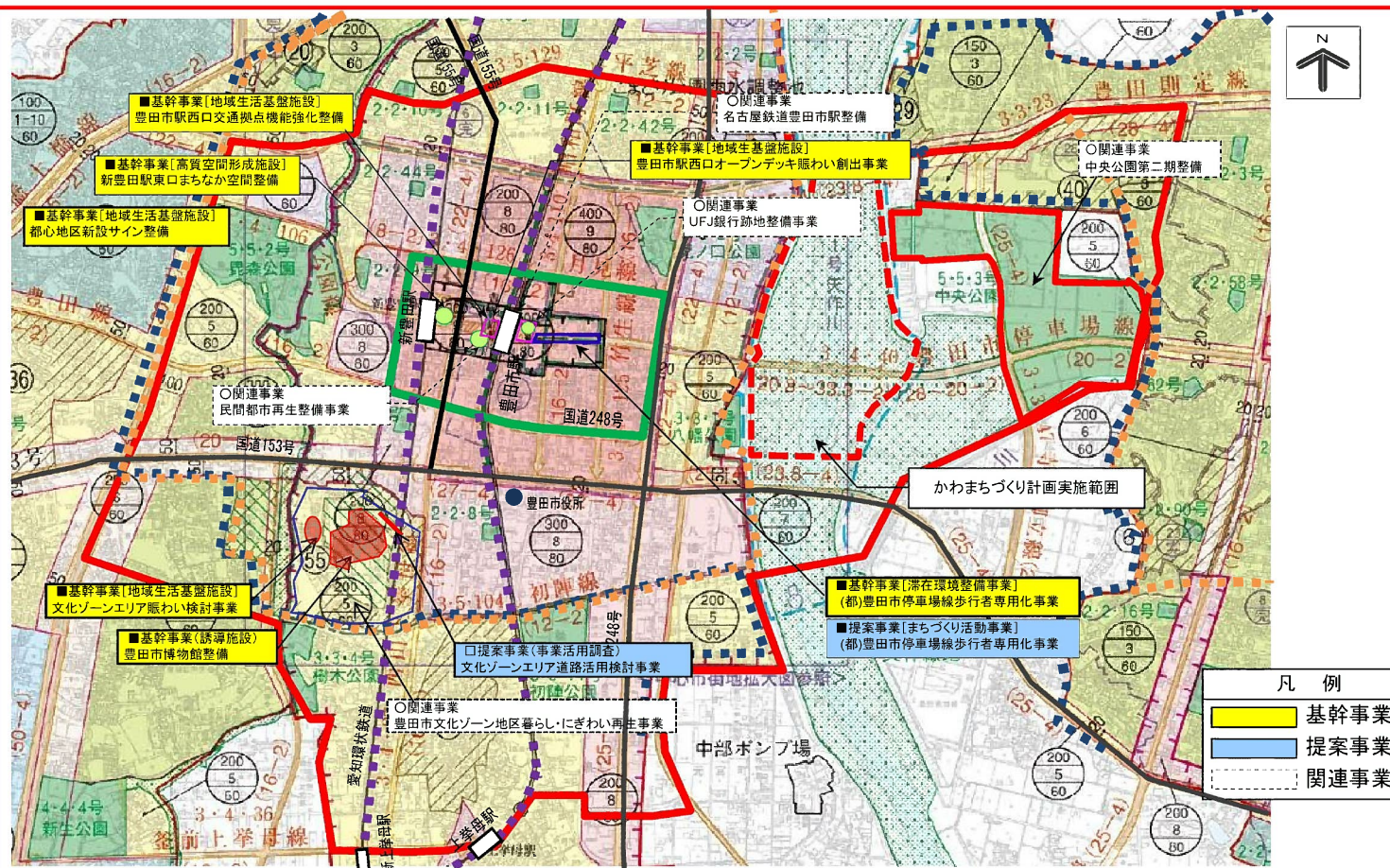


◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況④

■事業効果

・都心の魅力向上とにぎわいの創出に向け、都心再整備の方向性を踏まえた具体的な取組施策やロードマップを取りまとめた「都心環境計画」に関する豊田市駅前の整備及び、歴史継承拠点として「豊田市立地適正化計画」の誘導施設に位置付けられている豊田市博物館の整備を着手し、にぎわいと交流を生み出す空間整備を進めることができたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人流抑制や在宅勤務が増加し、効果の発現が限定的となった。



◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況⑤

■関連する成果目標（定量的指標）

指標⑤：開館年度（R6）の博物館への目標年間入館者数

現況値（H29）－ ⇒ 目標値（R6）50,000人

【目標達成に資する事業】

- ・豊田市文化ゾーン地区 暮らし・にぎわい再生事業



整備前



整備後
(施行中)

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況⑤

■事業効果

- ・開館により歴史的資源などを活用した魅力の向上を図るとともに、中心市街地との往来が活発となることで、まちの賑わいの創出を図るが、現整備計画期間内は施行中のため、次期整備計画期間内での効果発現を図る。

■目標指標以外の事業効果（補完指標）

「豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇りを持っている市民」の割合
44.2%（R1年） → 48.5%（R3年）

※第22、23回市民意識調査結果より



博物館の完成イメージ



えんにち空間

◆今後の方針

本整備計画期間は、平成29～令和3年度であったが、7基幹事業中4事業が令和4年度以降も継続中であることや、整備完了した3事業においても、各供用開始が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、十分なスタートを切れていないことなど、本整備計画当初に掲げた目標には未達である。

次期整備計画期間内において、全ての基幹事業が完了できる見通しであり新型コロナウイルス感染症の終息と共に、都心部の活性化と博物館や藤岡交流館の来場者数増、住宅需要に応える宅地供給体制を整え、賑わいと魅力ある都市づくりを目指すものである。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	基幹事業課により実施
事後評価の実施時期	令和4年12月
公表の方法	豊田市 市街地整備課ホームページに記載 http://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/gyoseikeikaku/toshiseibi/1014473.html